



目次

巻頭言	1
寄稿「7年間の歩み」	1
全連退理事會報告	2
東海北陸地区協議會報告	2
地区退職校長会だより	2
県退職校長会「研修会」報告	3
生き生きライフ	3・4

題字 19年度入会
安藤好子(元 名古屋・野立小)
絵 19年度入会
長坂正延(元 岡崎・葵中)

「創業も難く、 守成はより難し」



副会長
大橋 隆行

退職して五年たって、もう二度と教育にかかわる仕事をするのではないだろうと、今までの資料を整理・処分し、いよいよ孫の宿題係で人生に幕を下ろすのかと考えていたとき、縁あって現在の専門学校に勤めることになりました。

この学校は、ピアノの調律・修理やギター・バイオリンの製作、管楽器の修理を教える学校です。今までの私には、まったく無縁で、もっとも苦手な音楽の分野です。多分、学生たちも大学に行きそびれて仕方なくやってきた子たちだろう。少し、心が重くなりました。

しかし、北は北海道から南は沖縄、毎年三十を越す都道府県から集まってくる学生、そして、遠くは韓国・中国の

研修生たちと出会って、私の彼等に対するイメージが変わりました。

彼等は、一人暮らしは当然ですが、親に感謝し、アルバイトで生活費を稼いで、苦学をしながら楽器の技術を学んでいるのです。

そんな彼等と本年度、創立三十周年を迎えました。記念誌を作成し、記念演奏会を開催し、企業のオーナーを集めたセミナーなど、様々な行事を行いました。開校からの思いのこもった、私が今まで体験をした周年行事とは、一味も二味も違うものでした。そんな締めくくりに、在校生を主体にした記念集会を行いました。その中で、私は、唐の『貞観政要』にある「創業は易く、守成は難し」の話をしました。しかし、その中で、三十四人の学生と古アパートを教室にして、昼夜二部制で始めた創業での理事長の苦勞を話し、「創業も難く、守成はより難し」と結び、彼等の奮起を促しました。私たちの退職校長会も先輩たちの創業をうけて、守成の時代に入ってきたのでしょうか。自己満足だけでなく、少しでも、お役に立てたらと思います。

七年間の歩み



副会長
安藤 公明

平成二十一年度は、平成十五年に入会した会員が七年目を迎えました。平成十五年には、以前からの三年会員を含め五六七名であった会員数が現在、一六五〇名余となりました。今後も年度によって多少の増減は予想されますが、ほぼ現在の会員数での推移が考えられます。

七年会員の開始に伴い、会員数や予算規模等も大きくなることを踏まえ、活動内容の充実について活性化小委員会を設置して検討してきました。検討内容としては、会員の方々に向けての活動と、県と支部との連携活動を中心に進めてきました。

会員の方々に向けての活動としては、まず、広報紙の充実を図りました。従来はB5判の裏表、黒単色印刷で、掲

載する内容等も限られていました。そこで、A四判四面構成で文字も大きめ、カラー刷りとし、内容も会員の皆様の便りを掲載するなどにより、読みやすさと内容の充実した広報紙として発行してきました。

また、従来規定のなかった会員の計報への弔電対応も新たに実施してきました。

一方、県と支部との連携活動に関しては、支部組織設置の有無や、終身会員で構成され活動している各地区の退職校長会との関係等があり、今後も課題として引き続き検討していくことになります。

さらに、教育の重要性を広く啓発する意図で、他の都道府県で実施されつつある「教育の日」制定についても検討を加えていくことにしております。

ところで、本会に平成十五年に入会された会員の方が、今年度末をもって諸経費納入会員としては終了されることになりました。この七年間に広報への寄稿をはじめ、ご理解やご協力いただきありがとうございます。

今後とも、退職校長会の活動にお力添えいただければと願っております。

加藤 善章

冒頭、廣瀬久会長から、「本会の事業は順調に進捗している。今後、戦略・戦術として、より政治的な動きをしていきたい」との挨拶があった。

これを受けて、通例の各委員会等の活動状況に加えて、今回は①三省（文部科学省・厚生労働省・総務省）への要望書提出行動②教育関係二十三団体の国会議員への陳情活動など、詳細な報告があった。政権交代を機に、教職員定数改善・人確法の堅持、義務教育費国庫負担制度の復元などの要請行動が進んでおり、全連退の政治的な動きの素早さを得心した。

午後からの地区会では、東北陸の各県から「会員増強」について状況が述べられた。愛知は、ほぼ全員の入会が達成されており、強固に結びついていることを実感した。

今後共、全連退との連携を一層強めていきたい。

※ 本席上、入会率優良県として愛知に感謝状が贈呈された。

副会長
内田 久幸

飛山濃水（飛驒の山・美濃の水）の地岐阜において、十月一・二日に二十六名参加のもと、協議会が開催された。

まず、故岩間敏和会長が昨年提案された「東陸地区会則」の原案と修正案が、対比表で確認され決定した。岩間会長

の会則成立へのご尽力が、高く評価されたことは意義深い。次に、組織の拡大について、

加入率や悩み、工夫等が報告。来年度開催の三重県では、情報交換の場として文集『いきがい』の発刊。石川県からは、三十七地区の学校支援活動（学習・部活動・環境整備等）に力点をおき、会員相互の絆を強めていると報告された。

最後に新企画として、各県のホットニュース（静岡県――親和会会歌の創作・CD化、福井県――地区の生ゴミ再生への自立的参加と苦労話）が、熱き思いを込めて語られた。

二日目は、雨の中、岐阜城を訪れ、天守閣の見学と織田信長の住居跡の発掘調査状況を拝聴した後、散会した。

定年退職した年の五月、退

職校長会懇親会の案内を頂いた。どんな会かも解らないまま緊張して参加した。

ところが杞憂で、かつての先輩も皆さん同じ仲間といった感じで、すうっとお仲間に入ることが出来た。和気あいあい、先輩後輩拔きの、肩のこらない、楽しい雰囲気であつた。今まであまり話を交わしたことの無い大先輩からも気軽に声をかけて頂き、嬉しかった。

会は最初に出席者全員で記念写真を撮ることになっている。その写真を見るとその時の参加者は六十九名。

あれからもう十回参加したことになる。その間、懇親会も少しずつ変化してきた。どれも会員が参加しやすいようにとの世話人さんの配慮からである。ウィークデーから日曜開催に、夜から昼に、座席もあいいうえお願から番号くじに、と。

来年は、座るのが億劫になつたとの声に応えて「椅子席・テーブル」を検討しているところである。

丹葉地方（岩倉・江南・犬

山市、大口・扶桑町）の退職校長会は、歴史も古く、誕生したのは昭和五十五年である。

当時の記録を綴りで紐解いてみると、先輩方が情熱を持ってこの会を立ち上げられたことをうかがい知ることが出来、感慨深い。

会員の計報連絡は会の大きな役目の一つ。その連絡網は使われないのがよいのだが、昨年よりぐっと減ってきているのは嬉しい限り。

現職の校長先生方の退職された暁には、この会で温かく迎え入れたいものである。

豊田・西加茂退職校長会は、

豊田市と西加茂郡三好町の小
中学校を退職した校長（豊田・
三好在住で他の市町での校長
退職者も含む）で組織され、
現在会員数は三百九十名を超
えています。

毎年六月に新入会員を迎えて総会を開催しています。本年度は新入会員二十四名を含む九十名が参加して盛大に行われました。会では「米寿」を迎えられた先輩のお祝いや新入会員の紹介が行われます。昨年度から、土曜日に開催さ

れるようになり、新入会員はほぼ全員参加しています。先輩後輩問わず教育現場での話題や地域へのかかわり、退職後の人生等について熱く語り合っています。

夏には研修・親睦旅行を行っています。本年度は八月末に一泊で山梨県立美術館や久遠寺、身延山等を見学してきました。ミレーやバルビゾン派の作品を鑑賞しました。身延山頂からは雄大なパノラマを楽しま、心の洗



の作品を鑑賞
しまし
た。身
延山頂
からは
雄大な
パノラ
マを楽
しみ、
心の洗

また、隔年で忘年会・新年会を行っています。本年度は、十二月に忘年会を行いました。一年の節目に互いの健康を祝い、英気を養っています。

なお、本年一月に三好町が「みよし市」になりました。
来年度の総会で、本会の名称を「豊田・みよし退職校長会」に変更する予定です。

(二十年度入会 平野敬一)

県退職校長会

「研修会」報告

平成二十一年八月七日、正副会長を始め全役員を対象に、岡田豊義務教育課長（愛知県教育委員会）をお招きして研修会を開催しました。

講師の岡田氏は、新学習指導要領について、移行期間における基本方針・先行実施の内容・小学校の外国語活動、さらには教員の講習会について説明されました。小学校は二十三年度、中学校は二十四年度から全面实施となり、学校現場の円滑な移行に向けて着実な取組みを実感しました。

また、「全国学力・学習状況調査」「学校における教育の情報化」「生徒指導」など、義務教育がもつ今日的な課題についても、具体的な事例を挙げながら説明していただきました。課題は複雑多岐にわたっており、現職の校長先生方の真摯な取組みに思いを馳せたいであります。

加藤会長は、「退職校長会は、現職の校長会との連携を掲げ活動してきています。この研修会を契機に、校長先生方への一層の支援をしていきたい」と、お礼を述べられました。

出会い、ふれあいを
いやしに

17年度入会 鳥居 久男
(元 東海・上野中)

退職と同時に教育長を拝命。以来五年、浅学非才な私にとつて、教育長職は苦痛の種、そんなところに突然「生き生きライフ」の原稿依頼が舞い込んだ。悩みの中で進まない筆を取ることにした。

生き生きライフ

五年間を振り返ってみて、ここまでやって来られたのは「子どもたちとの出会い、ふれあい」のお陰だ。歩いての出勤は季節の移り変わりを感ぜさせてくれる。凍える冬、東の空の神秘さに思わず手を合わせることもある。そんな朝出勤から一変

して、自称「子ども見守り隊」車で町内巡回を始める。子どもたちと出会い、大声での「あいさつ」は一日のエネルギー源となる。なお、春と秋には「あいさつ運動」が阿久比町全域で展開される。家庭・学校・街での響きのよい「あいさつ」は私を元気づける。また、急速に進歩するメディア情報社会にあって日本人の美しい心を取り戻してくれる

読書、学校での「朝読」と家庭での「家読」を推奨。本年も「親子ふれあい読書キャンペーン」を十月十三日から十一月七日にかけて展開。世知辛い世の中であって親子の絆や温かい家族づくりに視点をのいた多くの諸行事は私の心に満足感、充実感を醸成させてくれる。このような素晴らしい「出会い、ふれあい」を一層、大切に生きていきたいものだ。



流しそうめんを園児と楽しむ

手作りホルンの
音色に魅せられて

15年度入会 堀田 貞雄
(元 名古屋・若水中)

平成十六年五月より、長野県木曾郡大桑村の小瀬木工所で原木の根曲り松を、ベル・一番管・二番管・三番管とただひたすら丁寧に時には荒々しく削り続け、磨き上げて三メートル四十センチの美しい曲線のアルプホルンができた



左から、白神・西川・脇田・高橋・堀田

がり、ヤマユリ・カタクリ・ウチヨウランの花の絵を描き、世界に一本だけのマイホルンが完成です。八月初旬でした。思えば定年退職後、名古屋市中津川野外教育センターの所長として単身赴任し、多くの人に支えられ、無事に名古屋の小学校五年生の山の体験学習を終えた冬の夜、誘われて、大桑村でのマイホルンの練習会に参加し、その優しい音色に包まれたことがホルン作りのきっかけでした。大桑村まで通う道中、中山道の馬籠宿・妻籠宿を訪れ、島崎藤村の『夜明け前』を読み、幕末から明治への激動に思いをめぐらしたり、日本画家の東山魁夷の作品にふれたり、新緑とコバノミツバツツジの美しさに目を奪われたり、地元の方の心の広さに打たれたり、と豊かな時間を過ごすことができました。感謝！感謝！その後、音色に魅せられて

ウォーキングの楽しみ

17年度入会 夏目 忠士
(元 北設・設楽中)

第二の勤め先に、毎日、往復百二十km近い道のりを元気に通っています。その元気の源は、長年続いているウォーキングかなと思っています。勤め先での昼休み、帰宅後の夜、休日の遠出先、これが、ここ数年のウォーキングの場。

帰宅後や休日は、なるべく夫婦で歩くようにしています。歩きの中で新たな発見・感動が生まれ、ウォーキングの楽しみが広がります。

設楽の山里は、夜空に輝く星が本当にきれいです。月日とともに、見える星座やその位置・向きがどんどん変化しているのです。それまであまり変化に気づかなかったのですが……。毎晩のように夜空を眺めながら歩いているうちに、星座への関心も高まり、より深く知りたくなって天体図鑑も購入しました。

国際宇宙ステーションも、インターネットで見える日・

時刻を調べ、ウォーキングの途中で、「見える。見える」と感動の声をあげています。



茶臼山 (1,415m) を背にして

休日には、近隣の山へ登ったり、海辺を歩いたり、古い町並みを散策したり……。感動を記録に残したくて、新たにポケットサイズのデジカメも買っちゃいました。ウォーキングで、心身ともにリフレッシュ！

生涯現役

21年度入会 中島 博明
(元 扶桑・扶桑中)

昨年九月のシルバーウィーク中に貴重な体験をしました。十九日から二十一日まで名古屋の瑞穂陸上競技場で全日本マスターズ陸上競技大会が開催されました。北は北海道から南は沖縄まで、下は三十五歳から上は百歳超までの千二百人余が集い記録を競う大会のことです。私は「スポーツ整膚」という新しいマッサー

ジを施術する運営に携わるために三日間競技場に通いました。

多くの競技者の中でも百三歳の方には敬服です。世界記録保持者のその方は、「やり投、砲丸投、円盤投」の三種目に出場されました。競技後に施術にいられたので対応したところ、とても百三歳とは思えないようなお肌でした。お話を伺っていると、考え方が柔軟でとにかく明るいのです。



韓国メディアの取材を受ける
103歳の競技者

また、ある八十五歳の女性の選手が「私、これから走りば跳びに出ます」と笑いながら話されたことも忘れることはできません。ユーモアがあるのだなと思いました。長生きの秘訣はこんなところにあるのではないだろうかとも思いました。

今回の貴重な体験は、私の心に強く刻み込まれました。そして、生涯現役であることがすばらしいことだと体感しました。

「鞆の浦」の二つ

18年度入会 豊田 元
(元 名古屋・新郊中)

広島県の鞆の浦へスケッチに出掛けるようになって二十一年になる。四季折々何度も足を運んで、小さな漁港や古い町並、路地の隅々まで丹念に描いてきたが、何枚描いても飽きることがない。

時々漁師が絵を覗きにきて、鞆の魅力について尋ねてくるのだが、説明するとなると難しい。また来たるなる不思議な魅力にあふれた港町である。鞆に通い始めた頃から港に大きな橋が掛かるという話を方々で耳にするようになった。古くから、潮待ちの港として栄え、今でも当時のよき風情を残したこの港町にも開発の波が押し寄せてきていた。開発の音が高まりつつあるな



鞆の浦スケッチ

か、旅人の一人でしかない私もやりきれない複雑な気持ちでいた。

先日、鞆の浦の景観が守られるという記事が新聞の一面に載った。うれしかった。

学生の頃、絵の師匠からスケッチは、自然から学ぶ最も大切な勉強だと教えられてきた私は、鞆の浦からさらに大きな希望と多くの課題をもらうことになり、意欲が沸いてきた。

心地好い感動を求めて

20年度入会 大西 尚子
(元 田原・田原東部小)

退職後は心の琴線に触れるような趣味の世界を広げたいとお茶のお稽古と観劇・音楽鑑賞を楽しんでいます。

お稽古を通してお茶の世界には数多くの日本の伝統文化が息づいていることに気付きました。茶道の奥深さを感じています。焼物や茶花、香、書等は気品があり、観ているだけで心が和みます。

お手前のお稽古をしながら、茶花にもはまっています。我が家の庭先に咲いている花を、野の花に見立てて、自分流に活けて楽しんでいきます。

お茶とは対象的なドラマチックな世界にも魅せられています。お芝居は作品に流れる作



愛用の茶道具 (薄茶点前・風炉)

家の伝えたい思いと感情移入にかける役者魂に心打たれます。

この夏、ベートーベンのアノソナタ「月光」の演奏と四人の語り手が織りなす朗読劇「月光の夏」を鑑賞しました。戦争犠牲者の鎮魂と平和への祈りが今も心に強く残っています。十月、全国退職女性校長会東京大会に参加した折、帝国劇場にて不朽の名作「レ・ミゼラブル」を観劇し、ミュージカルの高い芸術性を満喫しました。

「和敬清寂」「ドラマチックな感動」趣味は、私の心に楽しみを広げてくれています。

お詫びと訂正

会報二十号「計報」の中で、宇野正嗣先生の最終勤務校を下山小と掲載しましたが、下山中の誤りでした。お詫びし訂正させていただきます。